

放射線診断科のQuality Indicator

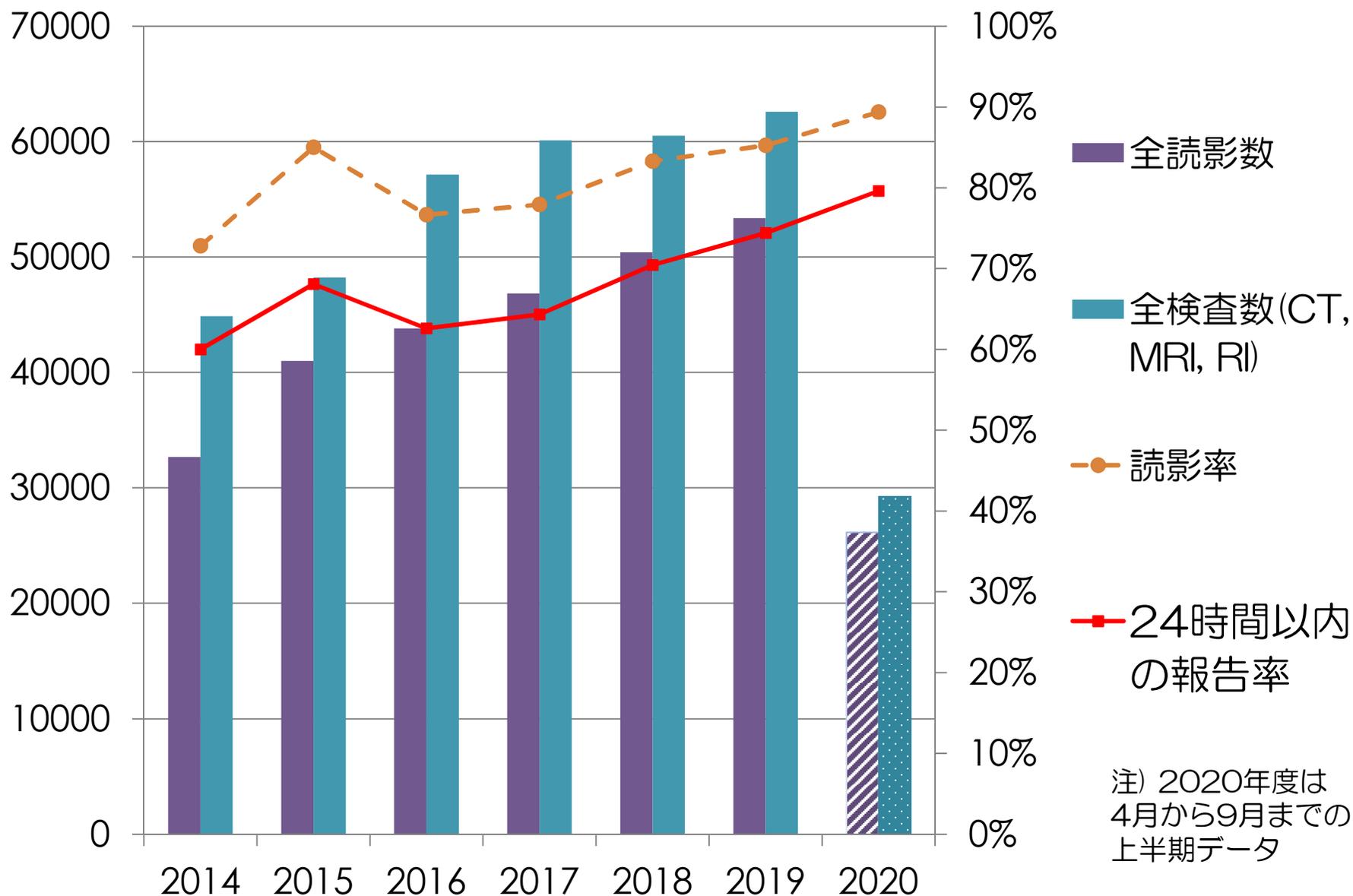
「放射線レポートが
24時間以内に作成された件数の割合」

AGMC-QI20003

背景

- 当院では膨大な数の放射線検査が行われており、CTやMRI,核医学検査などに対して、放射線レポートが作成されている。
- 放射線レポートを有効に利用してもらうためには、タイムリーに読影することが重要である。
- 放射線レポートが適切なタイミングで読影されているか、24時間以内に放射線レポートが作成されている割合(検査後**24時間以内**の読影率)を算出した。

放射線検査数および読影数・読影率の推移



注) 2020年度は
4月から9月までの
上半期データ

グラフの解説

- 当院における2019年度の24時間以内の報告率は74%
- 放射線検査数および読影数は、旧病院以降一貫して増加
 - 今年度はCOVID-19の影響で検査数は若干減少する見込み
- 読影率および24時間以内の報告率は2016年以降毎年上昇
 - 今年度も読影率および24時間以内の報告率は向上する見込み

解説

- 一部診療科の読影不要検査を除いて、レポートを作成
- 緊急性・重要度の高い検査から優先的にレポートを作成し、当院の目標とする「高度専門・救急医療」に貢献することを目指している
- 主治医が予期しない緊急性の高い所見を認めた場合は、直接連絡
- タイムリーなレポート作成の重要性について科内での意識付け

今後の課題

- 読影率・24時間以内の報告率は上限に近づきつつある
 - レポート作成のスピードだけではなく、質の担保も大切
 - コンサルトやカンファレンスを通じたフィードバック
 - 十分なマンパワーの確保と、読影に集中できる体制作りが必要
- 作成された放射線レポートを適切なタイミングで主治医が確認してくれているか？
 - 昨年11月より放射線レポート既読管理システムが稼働
 - レポート確定後、ほぼリアルタイムに依頼医に完成を通知
 - 毎月1回(第3月曜日)に各診療科で30日以上未読の放射線レポートを一覧出力し、各診療科長から当該医師に指導を行う
 - 現在のレポート作成後1ヶ月時点でのレポート確認率は**99.87%**